

# 平成29年度 自己評価の結果について

学校法人旭川カトリック学園 羽幌藤幼稚園

## 1. 本園の教育目標

キリスト教的な愛を基本とする宗教的な雰囲気の中で、幼児一人一人と向き合い、人格形成に最も大切な時期に、はっきりとした道徳観をもてるようにする。また、戸外遊びなどを通じ主体的の遊ぶ活動を意図的に取り入れ、幼児自身が持つ可能性を最大限に伸ばすことを基本にした保育計画を作成し保育を行う。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- \*カトリックの教育理念の理解に職員で取り組み、保育内容及び指導のあり方についても職員間での話し合いを深め指導計画に反映させる。保育計画については保護者にも知らせ、共通の認識をもって保育にあたる。
- \*縦割り保育を実践する中で家庭的な園での生活を重視し思いやりの心を育てる。  
また、年齢別の保育では、発達を考慮しながら進める。
- \*満3歳入園児に対して柔軟に対応し、初めての集団生活にスムーズに入れるよう配慮する（連絡ノート等の活用）。
- \*園庭や園外保育を通して戸外遊びを充実させる。
- \*地域の資源や公共施設訪問などを行い、地域に根ざした保育の実践を心がける。  
また、老人施設訪問なども継続して取り組んでいく。
- \*支援を必要とする幼児に対して、職員を配置し、寮育機関との連携を深め、普段の保育を伝え（連絡ノート）一人一人に配慮した保育を行う。
- \*教師一人一人が幼児と向き合い、きめ細かい保育ができるよう、また保育チームとして情報を共有し、自己研鑽を心がけ資質の向上をはかる。
- \*小学校との相互の連携を深め、就学に向けてスムーズな移行を行う。
- \*保護者への情報提供を遅延なく行い、個人情報に留意しながらホームページやブログなどの充実を図る。
- \*卒園児を対象とした学童保育（のびのび）を開設し、子育て支援の機能を充実させる。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 教育目標・教育方針 建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。 教育目標と教育方針を理解して保育に当たっている。	B	教育目標にあるキリスト教的愛を基本とする雰囲気作りに努めるとともに、保育計画の中にも反映させて保育に当たってきた。ただ、園長と教職員間の教育方針の話し合いは十分とはいえ今後とも取り組

		<p>んでいかなければならないと感じている。行事等で忙しくなると、先延ばしになってしまうこともあったので、長期の休みなどを利用し、定期的に取り組んでいきたい。</p>
<p>2 教育課程・指導計画</p> <p>幼稚園教育要領を理解し、教育目標に反映させながら保育計画を作成している。指導計画を反省、評価し改善している。指導計画は幼児の興味や関心、これからの生活などを考慮して作成している。</p> <p>指導計画は、保護者にも周知し、家庭との連携をもって取り組む。</p>	<p>A</p>	<p>新幼稚園教育要領が29年4月から施行されているが、まだ反映されているとはいえず、今後も理解し、地域性や季節なども考慮しながら柔軟に保育計画を立てるように努力したい。</p> <p>今年度も行事などは子どもたちが主体的に取り組めるように、十分な時間を掛け取り組んできた。園での取り組みが家庭にあっても理解いただけるよう2週ごとの週案を提示することにより、子どもたちが、期待感を持って登園し、先の見通しを持って活動できるよう心がけてきた。家庭にあっても園と連携して子どもたちの成長を願っていると感じた。</p>
<p>3 環境構成</p> <p>幼児の興味や関心、実態に即した環境を構成している。</p> <p>季節や周囲の自然を生かした環境を構成している。幼児の主体的な活動の合わせて適切に環境を再構成するようにしている。</p> <p>施設、設備を日常的に点検し安全を確保する。</p>	<p>A</p>	<p>幼児の興味関心を的確に捉え、環境構成を行うよう努力した。廊下に季節ごとの行事等の写真の掲示や季節ごとに子どもたちが作った作品をばら組壁面に展示するなど、季節を感じるよう工夫した。また、園庭遊びや園外保育を充実させた。しかし、冬期間の戸外遊びは天候やインフルエンザの流行、天候などにより計画通りにいかなかった。</p> <p>園舎の老朽化による設備の不備は日常的に点検し、その都度補修をしているが、予算の関係で補い切れていないのが現状である。今年度は園舎前の壁の補修を行った。</p> <p>冬期間インフルエンザやノロウイルスの対策として、紙コップの使用や除菌対策に力を入れた事により、インフルエンザは短期間の休園措置で収束し、その後も蔓延することがなかった。</p>
<p>4 宗教教育</p> <p>宗教的な環境を大切にしている。</p> <p>祈りを大切にし、神様を賛美し感謝する心が育つよう、また、人を思いやる心が育つよう心がけている。</p> <p>園児に対して宗教講話が定期的に行われている。</p>	<p>A</p>	<p>朝のお祈り、食前後お祈り、帰りのお祈りといつもお祈りによって始まり、終わる幼稚園であるよう心がけた。お祈りに対しての保育者の意識的な言葉がけを行い、お祈りの意味を理解できるよう促した。</p> <p>園児の長期の病気療養に対して継続してお祈りする姿が印象的だった。聖堂での宗教講話は年間20回程度また、学期の始業日、終了日、誕生会などの</p>

<p>「がまん・しんせつ・おいのり」を保育の中で生かしている。</p>		<p>機会に行うことができた。聖書のお話は紙芝居やポスターなどを使い伝えている。年間を通じ題材は同じようにしているため年長児になると意味を理解出来ているように思う。</p>
<p>5 保育の内容・方法・</p> <p>健康のための食育や生活習慣を育て、自分を大切に、他の人や社会の喜びを持たせる。</p> <p>友達と共感し、助け合い、協同でやり遂げる喜びを持たせる。特に弱い者や小さい者を大切にする。</p> <p>保護者、祖父母、地域等の、幼児を取り巻く人々の愛情に気づかせ、家族、高齢者とのふれあいを大切に、人々に出来ることを実践する。</p> <p>自然界の不思議に関心を持たせ、畏敬の念と、自然を大切にする心、探求し思考する喜びをもたせる。</p> <p>動植物との触れ合いを多くし、生命を大切にする心や感謝する心、豊かな心情を育てる。</p> <p>言葉を注意深く聞き、心を開いて話し、紙との対話である祈りのための沈黙や静けさを大切にする心や育てる。一人ひとりの個性を大切に自己表現を助け、美しいものにたいする感性や創造性を援助する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>縦割り保育を実践する中で、思いやりや生活習慣の自立を心がけ保育を行う事が出来た。</p> <p>食育については農家の方や漁師の方の協力をいただき実施することが出来た。中庭の畑では今年もジャガイモ(今年は連作による病気が付いて食べることが出来なかった。)・トマト・キュウリ・枝豆を育て収穫の喜びを味わうことができた。また、田植えから稲刈りまでの経過を見学し、収穫後には新米をいただき、みんなでクッキングをしたことで食への関心をさらに向上させることができた。</p> <p>恒例となった老人施設への訪問は交流することに視点を置き利用者の方に大変喜ばれた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>警察署訪問での交通安全指導、消防署見学での訓練見学など地域の方の協力をいただきながら取り組んできた。</p> <p>年長児の羽小まつり参加、授業参観や給食体験、ミニ羽小まつり参加など就学に向けて期待感が持てる取り組みになった。</p> <p>また、支援を必要とする幼児に対し、個別の支援計画を作成し、保護者との連絡カードに園での様子を画像とコメントで知らせ、きめ細かい支援を行った。</p> <p>満3歳児入園の幼児に対しても園に慣れるまで個別の対応を行い、連絡カードなどを使い保護者との信頼関係を築き、スムーズに園生活が送れるよう配慮した。また、幼児に合わせ、柔軟な対応を行い、職員全員で課題を話し合い取り組んだ。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

キリスト教理念や建学の精神は園長を交えた職員間での共通認識をより一層築けるよう、今後も取り組んでいかなければならないと感じる。

縦割り保育は継続する中で、異年齢での生活が元となり思いやりの心が育まれている。新入園児も年長年中児との関わりのなかで園生活に慣れていくことができたが満3歳児が1学期から入園することで個別の対応が必要となった。今後入園の状況を把握し適切な対応ができるようにしていきたい。行事等においても早い時期から取り組み（マーチング・生活発表等）、全体がスムーズに流れように配慮した。運動会は2年ぶりに園庭での開催となり青空の元、元気に競技に参加する子ども達の姿が見ることができた。毎年の事ながら、保護者の皆様の協力に感謝している。

保育計画や内容については、幼児の興味や関心を的確に捉え取り組むよう努力してきた。今年度も老人施設へ訪問し、子どもたちの歌や遊戯を見ていただいた。一緒に楽器を奏でるなど、高齢者の方にも喜んでもらい今後も継続していきたいと思う。幼小の連携については、今年度は運動会見学（延期のため平日開催だったため）、羽小まつり参加、授業見学及び給食体験、ミニ羽小まつり参加などに参加した今後は幼稚園の行事についても呼びかけていきたい。

子ども子育て法に基づく、就園条件の変更「施設型給付」については、1年が経過しスムーズに進められている。今後も羽幌町と協議しながら進めていきたい。

ホームページなどの情報発信は入園募集時に更新している。今後もブログの発信と合わせ充実させるようにしたい。

今年度から実施した学童あずかりは低学年を中心に、5名から10名ほどの児童が利用している。今後も安心安全を心がけ、子どもたちが安らげるよう、保護者にあつては安心して預けることができるよう運営していきたい。

#### 5. 財務状況

太陽有限責任監査法人による監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び本園の財務状況は率的な運営にあっている。

## 保護者・関係者の意見欄

(沢山の方のご意見をいただきましたが、重複している部分や個人情報に関わる部分については校正させていただきました。ご了承下さい。)

全般的には、教育方針に基づいた、きめ細かい保育がなされていると思います。数年前から実践している縦割り保育についても、定着していると感じています。未満児についても面倒を見てもらっていることが多く、本人にとって大変助かっていると思います。

キリスト教理念や建学の精神については、そこが藤幼稚園を選択した理由ではなく、「がまん・しんせつ・おいのり」に代表されるようなシンプルな宗教教育で良いと感じています。今後もこの規模に見合ったほのぼのとした幼稚園であることを望みます。

子どもたちが親から離れ初めて出会う集団の大切さは、教育目標にも掲げています、「人格形成にもっとも大切な時期に、はっきりとした道徳観を持てるようにすること」はとても重要なことであると思っています。子どもたちと接する先生方の姿を見ていますと、秘本の理念が感じられます。日々の保育の中でも、子どもたちが自分の力で伸びて行けるように個々を大切にされた適切な保育の取り組みがなされていることが伺えます。

縦割り保育で異年齢の子どもと一緒に過ごすことで様々な刺激を受けるので良い点ですし、年上の子と日々接するなかで、自分が成長したときに自然と年下の子に優しくお世話することができるようになると思います。

縦割り保育の中で、自然に大きい子へのあこがれ、小さい子へのやさしさが生まれ、成長することができたと感じます。家では末っ子であるため、甘えることが多いですが、園では年長として年下の子をいたわることが学べたと思います。

縦割り保育はとてもいいと思いますが、年中年長児になったら、いろいろなことに挑戦できたらいいですね。体操やダンスなどちょっと難しいことも・・・(今年の青さんの生活発表のダンスはかわいらしくてとても良かったです。クリスマス会の雰囲気とは違い元気な園児のダンスもやっぱりいいですね。)運動が苦手な子もいるとは思いますが、マット運動やCOTなど取り入れてみたら良いと思います。

小さい園であるからこそ先生達の目が行き届き、さらに上の子の時から先生がほとんど変わらずにいてくれるので安心して子どもを預けることができました。

風邪の流行対策として、紙コップの使用や除菌対策のおかげで、短期間の休園で終わったと思います。今後も続けてほしいです。個人で持っていつている手ふきタオルは、1週間ごとに替えていますが、せめて週2回程度替えるようにした方が衛生的に良いのかなと思います。

冬は悪天候やインフルエンザの幼で外遊びが難しかったとは思いますが、年間を通じて戸外遊びを積極的にしていただきとても良かったです。今後も続けていただきたいと思います。先生方が普段からこ

どもたち丁寧にみてくださるお陰で(個人対応も含む)子どもたちが楽しくのびのびと園生活を送っているのがとてもよく感じられます。年長・年中さんが自然と一緒に遊んだりできるのは縦割り保育のよさだと思います。また、一学期に大きな行事がなく、ゆったり子どもたちが過ごせることも、毎年のことながらとてもありがたいことだと思っています。

ゆとりが感じられるカリキュラムや成長を捉えた発表の場の内容等からは子供たちとの楽しい練習風景や笑顔が感じられます。

子どもは廊下に貼り出される季節ごとの写真の中に自分の写真があることで、先生がちゃんと見ていてくれると嬉しい気持ちになっていたようです。

宗教教育というところでは、運動会でもお祈りしていたところが印象的でした。応援に来ていた祖父母も「一見体を動かすこととつながりがないように思っていたけれど考えさせられた」と、子ども達が手を合わせている姿の美しさに感動していました。「がまん・しんせつ・おいのり」を意識した保育は子どもにも伝わっていて、家でも妹に教えています。一人一人丁寧に関わっていることも、子どものちょっとしたサインや長所にもきがついてくれて親のこちらが反省したり感激しています。

どの先生も子供たちの様子を把握していて目が行き届いていると思います。こちらからの連絡事項、相談、質問等についても、どの先生にお話ししても大丈夫という安心感があります。職員間の情報共有もできていて信頼できます。

満3歳児や支援を必要なお子さんに対しての連絡ノート作成はともうれしいですし、子供の園での様子がよく分かって助かります。先生方に負担が掛かりすぎない範囲で続けていただけたらと思います。

これまでどおり、フットワーク軽くバスで園外保育に出かけたり、畑の収穫やクッキングなど、いろいろな体験をさせてもらえるとうれしいです。暖かくなったらなるべく外遊びを増やしてもらいたいです。中庭での畑作りについては収穫の楽しさを身近に感じる事が出来、農家の方や漁師の方の協力もあり、海と山に囲まれた地域性を育むことができるのも魅力のひとつであると思います。

園での様子については、ホームページや連絡ノートで随時確認出来たのは、とても心強いツールであると思いますので今後共継続していただければと思います。

学童の預かりも就労支援の一環と共に子供たちの居場所、親御さんの子育て支援の面からも必要とされています。次の成長のステップにつながる場としての緩やかな居場所としての活動も期待しています。

本年度も本校の各種行事に参加していただき、大変ありがとうございました。本校の子供たちにとっても、下学年や幼い子供たちとの関わりを通して、身につける資質・能力がありますので、園児の参加にとっても感謝しております。今後共幼小連携をよろしくお願い致します。

## 今年度、重点的に取り組む目標・計画

- \* カトリックの教育理念の理解に職員で取り組み、保育内容や指導のあり方についても職員間での話し合いを深め指導計画に反映させる。保育計画については保護者にも知らせ、共通の認識をもって保育にあたる。
- \* 縦割り保育を実践する中で家庭的な園での生活を心がけ思いやりの心を育てる。また、年齢別保育では、年齢の発達に合った計画を行い、発達を考慮しながら進める。
- \* 満3歳入園児に対して柔軟に対応し、初めての集団生活にスムーズに入れるよう一定期間の満3歳児クラスの配置や連絡ノートを活用し個別の対応に配慮する。
- \* 園庭や園外保育を通して戸外遊びを充実させる。
- \* 地域の資源や公共施設訪問などを行い、地域の環境を生かした保育の実践を心がける。また、老人施設訪問なども継続して取り組んでいく。
- \* 支援を必要とする幼児に対して、職員を配置し、寮育機関との連携を深め、保護者には園での様子を伝える連絡ノートを活用しながら一人一人に配慮した保育を行う。
- \* 教師一人一人が幼児と向き合い、きめ細かい保育ができるよう、また保育チームとして情報を共有し、自己研鑽を心がけ資質の向上をはかる。
- \* 小学校との相互の連携を深め、就学に向けてスムーズな移行を行う。
- \* 保護者への情報提供を遅延なく行い、個人情報に留意しながらホームページやブログなどの充実を図る。
- \* 卒園児を対象とした学童保育(のびのび)を継続し、子育て支援の機能を充実させる。